

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4092000019
法人名	医療法人 柳川滋恵会
事業所名	グループホーム 春
所在地	福岡県柳川市西浜武1085番地の1 (電話) 0944-72-2211

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	平成20年5月1日

【情報提供票より】 (平成20年2月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(100,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年2月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	3 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲斐田医院 さいしょ歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

老人保健施設と隣接する事業所は明るい近代的な建物で、さり気ない小花壇の草花の風情に利用者の心安らかな日常が伺える。ゆったりと広い共用空間には独自の丸いテーブル・椅子が程よく配置され、懐かしい和室の畳や掘り炬燵は利用者の語らいの場になり、時折り釜茶の催しもある。紙芝居や郷土色豊かな雛人形作り等に利用者と職員が共同で取り組んだり、外出の機会を増やす等、一人ひとりの尊厳と心身自立への支援が見られる。運営者・全職員は高い理念と熱意を持ち、地域福祉への貢献と地域交流を通じ、サービスの更なる向上を目指して取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題については、全職員で話し合っ改善計画を立て、「理念の文字拡大と掲示場所」や「成年後見制度の活用」等については職員研修等を行い、具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義・目的を全職員が理解している。自己評価は全職員で話し合い、2ユニットの管理者が意見を聴取し、集約している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的開催し、利用者状況・行事・職員研修・外部評価を報告し、助言・要望・アドバイスを貰っている。夜間想定消防訓練や、介護福祉士実習生ボランティアの受入れ、地域との交流・行事参加等、そでの意見・助言をサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族会や意見箱を設置し、来訪時に声かけする等、積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴取するよう努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。ドライブや散歩を増やし、近隣交番やガソリンスタンドとの協力体制を得る等、家族からの意見を運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議を通じて、事業所便りを配布している。地域行事へ参加して地域との交流に努め、地域の運動会への見学参加や、近隣の小・中・高校生の訪問受入れを行っている。また、介護福祉士の実習生ボランティアを受入れている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所と地域の関係強化を図り支えていく視点で「安らぎと喜び尊厳のある生活を維持し、住み慣れた地域で暮らし続ける支援を図る」という、事業所独自の理念を全職員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、管理者と職員は理念を唱和して共有し、言葉かけ・態度・記録等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じて、事業所便りを配布している。地域行事へ参加して地域との交流に努め、地域の運動会への見学参加や、近隣の小・中・高校生の訪問受入れを行っている。また、介護福祉士の実習生ボランティアを受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義・目的を全職員が理解している。自己評価は全職員で話し合い、2ユニットの管理者が意見を聴取し、集約している。前回評価の改善課題については、全職員で話し合って改善計画を立て、「理念の文字拡大と掲示場所」や「成年後見制度の活用」等については職員研修等を行い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者状況・行事・職員研修・外部評価を報告し、助言・要望・アドバイスを貰っている。夜間想定消防訓練や、介護福祉士実習生ボランティアの受入れ、地域との交流・行事参加等、そこでの意見・助言をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、介護更新手続きや報告等で行政担当者に相談し、事業所の近況等を話している。市主催の研修会には出来る限り参加し、関わりを深め共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	テキスト・パンフレット等資料を集め内部学習し、必要時には全職員が利用者に説明出来る研修記録・報告書が認められた。さらに資料のコピーを全職員へ配布し徹底を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回、事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶりや行事等を家族に知らせている。また、家族来訪時に近況・健康状態等を詳しく話し、月1回、スナップ写真等を手渡し、個々にあわせた報告をしている。緊急時には電話連絡している。金銭管理については、自己管理で数名が行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や意見箱を設置し、来訪時に声かけする等、積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴取するよう努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。ドライブや散歩を増やし、近隣交番やガソリンスタンドとの協力体制を得る等、家族からの意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えるよう勤務時間や休日の調整等の工夫をしている。職員交代時は引継ぎ期間を十分に設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。一人ひとりのキャリアに留意し、生き生きと働きながら社会参加や自己実現ができるよう環境づくりを図っている。勤務時間については、職員の希望を尊重している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者・管理者は、利用者に対する人権の尊重を重んじ、日常的に職員に話をしている。人権に関する研修は、一部の職員のみ研修を受けている。また、人権に関するパンフレットがある。	○	全職員の内部または外部研修への参加の機会を設けて、人権教育を実施してほしい。また、研修記録を残し、資料等は職員がいつでも確認出来るように事業所で保管してほしい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者・職員に学ぶ事を推進し、外部研修は全職員に学ぶ機会を確保できるように配慮している。定期的に研修の報告・カンファレンスの時間を設け、全職員に資料を配布し、研修内容の共有を図っている。介護福祉士の資格を得る等、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者ネットワークに加入し、県内のグループホーム協会地区勉強会に職員が参加している。また、同業者と、時折り電話や訪問で交流し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族と共に見学し、一緒にお茶やレクリエーションを行ったり、職員の自宅訪問や病院訪問を通じて、利用者と馴染みの関係を作っている。やむを得ず即利用の場合は、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族と共にしばらく過ごしてもらおう等、工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から調理・裁縫・紙芝居・畑仕事・門松づくり等、生活の技や知恵を教えてもらう場面があり、共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない言動・表情・癖・習慣から意向の把握に努め、声かけしたり推し測っては、さり気なく確認している。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者に希望等を聴取し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人・家族等や職員の気付き、意見、アイデアを取り入れ、本人本位の介護計画を作成している。また、本人及び家族の署名、押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直し、家族に連絡している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎は、家族と職員で相談しながら、柔軟に対応している。利用者が入院した場合は、家族の了解のもとで見舞うようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援をしている。家族と職員で相談しながら、柔軟に対応し、適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、対応方針が特になく、家族等への説明も行っていない。	○	利用者や家族が安心して利用出来るよう、重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の意向を大切にしながら、家族・かかりつけ医、職員と話し合いを行って合意を図り、全員で方針を共有してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇の研修会を毎月行い、管理者は職員にその都度言葉かけ・対応・記録等について話し、意識化を図っている。職員は諸場面で日常的にプライバシー確保を心がけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、本人の思いや希望にそって、朝寝の好きな人は朝食を遅くする等、柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備している。職員は利用者と同じ食事を同じテーブルと一緒に摂りつつ、さりげなく介助している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は利用者の希望にあわせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の人には、職員をや時間を替え、タイミングを図り、声かけして支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者のできることで得意な事を把握し、料理・畑仕事・大工仕事・裁縫・編物・カラオケ・ぬり絵等、利用者の生活歴や力を発揮する場面を作り、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の状況や希望また天候等に配慮して、概ね毎日の散歩、月2～3回の初詣・四季折々の花見のドライブ、買い物等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握し、見守りや声かけを行っている。また、近隣地域や交番に協力をお願いしている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成し、法人の協力の下に、非常災害時の連携体制を構築している。避難訓練は、年2回、消防署の協力を得て行っている。運営推進会議を通じて、地域への協力を呼びかけている。非常用食料や飲料水・備品を準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は、栄養バランス・カロリーに配慮し、管理栄養士が利用者の嗜好や習慣を考慮し、作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や飾り窓に花や季節を感じる小物を飾り、共用空間にはテーブルや椅子、和室を設置する等、家庭的雰囲気に配慮している。不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた整理筆筒・テーブル・椅子・テレビ・鏡台・小物・手作りカレンダー等、馴染みのものを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。